

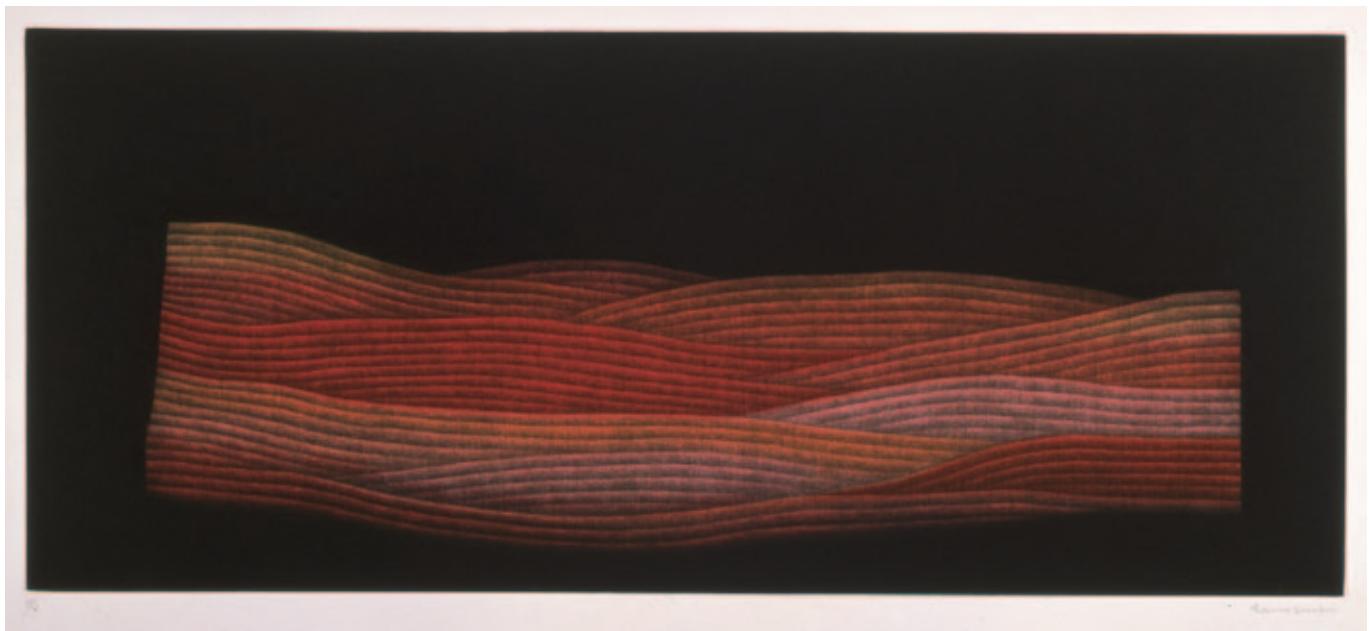
# 冬の浜口陽三展

# 色彩のカーテン

濱田祐史、浦佐和子の作品とともに

2016年  
12月6日(火)～2月12日(日)

※開催期間中に冬期休館(12/26～1/6)がございます。



野（赤） 1985-92年 浜口陽三 カラーメゾチント 23.3×54.5cm



「C/M/Y」シリーズより 2015年 濱田祐史  
デジタルルボラトライドトランスファー 各18.0×13.0cm



夏の終わり / Loppukesällä 2014年 浦佐和子 スクラッチング 18.2×25.7cm

## ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

開館時間：平日 11:00～17:00 / 土日祝 10:00～17:00 (最終入館 16:30)

入館料：大人 600円 / 大学・高校生 400円 / 中学生以下 無料

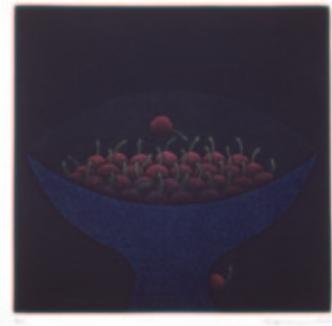
休館日：月曜日 (1/9は開館)、冬期休館 12/26(月)～1/6(金)、1/10(火)、1/28(土)

※12/23(金・祝)はワークショップ開催のため 1階展示室が観賞しにくくなります。

※1/28(土)はギャラリートークのためご予約者ののみの入館となります。

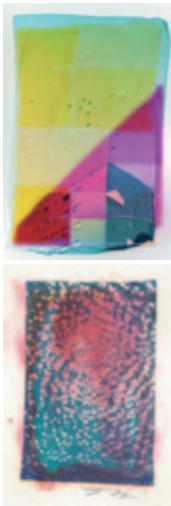
※休館日、開館時間、出品作品等は都合により変更する場合があります。

《ナイトミュージアム / 会期中、第1・3金曜日(12/16、1/20、2/3)は20:00まで開館、最終入館 19:30》



上右 32のさくらんぼ 1979年 19.3×19.5 cm  
 上左 蝶と太陽 1969年 19.7×19.4 cm  
 下 魚 1959年 7.6×9.6 cm

全て浜口陽三、技法はカラーメゾチント



### はまだ ゆうじ 濱田祐史

1979年大阪府生まれ。2003年日本大学芸術学部写真学科卒業。

写真をメディアとして『見る』とはどういうことなのか、『見えない』とはどういうことなのかという問いかけを元に撮影、制作をしている。近年の作品発表は東京のPGIでの個展の他、2014年にはスイスのヴェヴェイのフォトフェスティバル "Images" での展示、2015年にはフランスのエクスアンプロヴァンスフォトフェスティバル、ニューヨークのコンデナストギャラリーでの展示がある。また、2014年には写真集『photograph』が Aperture/Paris Photo First Photo Book Award2014 にノミネートされるなど、東京を拠点に国内外で作品発表をしている。

「C/M/Y」シリーズより上 / 2015年 下 / 2014年  
濱田祐史 デジタルポラロイドトランスペア  
各18.0×13.0cm

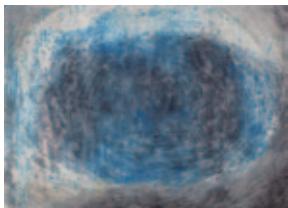


### うら さわこ 浦佐和子

1986年東京生まれ。2008年武蔵野美術大学を卒業後フィンランドに拠点を移し、2011年に Aalto 大学の修士号を取得。主に自然の美と記憶の中の風景をテーマに制作をしている。グループ展やコンペティションにも積極的に参加し、2010年 HeimTextile (フランクフルト) に出典。また2010年に行われた cocca 主催 TextilePrint Festival2010 にて入賞を受賞。

2012年 Marimekko 2012S/Sコレクションにてデザインを提供。現在は、Marimekko へのデザイン提供など、フリーランスのテキスタイルデザイナーとしてヘルシンキで活動している。

夜桜/yozakura 2014年 浦佐和子  
スクラッチング 18.2×25.7cm



目/silmä 2014年 浦佐和子  
スクラッチング 18.2×25.7cm

## ごあいさつ

繊細な色彩に焦点をあてた浜口陽三の銅版画展を開催します。

浜口陽三（1909-2000）は戦後パリに定住して本格的に銅版画制作をはじめ、ほどなく国際的に認められる芸術家となりました。浜口は黒の濃淡を細やかに表現する銅版画技法「メゾチント」を独自に習得し、色版を重ねて刷る「カラーメゾチント」へと発展させたことで知られています。

カラー・メゾチントは基本的に黄、赤、青、黒の4つの版をつくり、それを一枚の紙に重ねて刷ることによってひとつの作品を完成させます。現在のカラー印刷に使われる発色方法と仕組みこそ同じですが、浜口が時間をかけて銅に刻む手加減によって、光と闇を併せ持つ粒子のような、柔らかい色彩のニュアンスが生まれます。

浜口作品に加え、本展では小企画として現代の二人のアーティストの作品を紹介します。実験的な作品を次々発表している写真家・濱田祐史（1979-）の「C/M/Y」シリーズは、複数の写真の色層を水の中で分解して取り出し、紙に重ね合わせることで再構築した試みです。研ぎ澄まされた感性のもとで瞬時にめぐり合わされた色と形はドラマを内包し、手作業の痕跡も魅力の一部となっています。

ヘルシンキ在住のテキスタイルアーティスト・浦佐和子（1986-）のドローイングは、自然の美や記憶の中の風景をテーマとし、多くがテキスタイルに使われています。質感の異なるクレヨンを2~3層塗り重ねてから、爪楊枝でひっかいて線や点を描く手法は、銅版画の彫る作業に重なるところがあります。一本一本の線に息吹があり、北欧の風や大地、そのはるかな先に続くような作品です。

色のかさなりから生まれるそれぞれの物語をどうぞご鑑賞ください。

## ギャラリートーク

本展出品作家である濱田祐史氏、浦佐和子氏をお招きし、制作にまつわるお話をうかがいます。トーク終了後はささやかなお茶会を開催します。

日 時 — 2017年1月28日（土）  
 開場受付開始 13:30 ~  
 14:30 ~ 15:30 ギャラリートーク  
 16:00 ~ 17:00 お茶会とご歓談、自由鑑賞の時間  
 定 員 — 60名ほど  
 参加費 — 入館料+300円  
 申 込 — 12月13日（火）12:00 ~電話にて受付開始。（先着順）

## ワークショップ 「 紬と出会うアクセサリー 」

半透明な緹の布の重なりを楽しみながら絞り染め、型染めでアクセサリーを作ります。  
 含みのある華やかさや、いのちといのちの物語を感じるアクセサリーです。

講 師 — 寺村サチコ（テキスタイルアーティスト）

日 時 — 2016年12月23日（金・祝）  
 【午前の回】 10:30 ~ 12:30  
 【午後の回】 14:30 ~ 16:30

定 員 — 各回12名

持ち物 — あればエプロン、雑巾

参加費 — 1200円（入館料込）

申 込 — 11月22日（火）

12:00 ~電話にて受付開始。（先着順）

※お申し込み後直前のキャンセルはご遠慮ください。



## ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-35-7

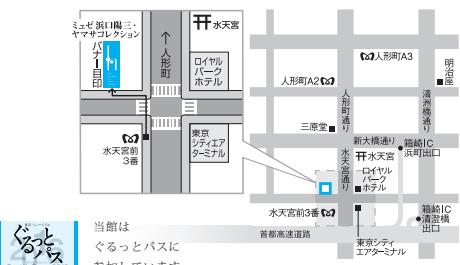
Tel : 03-3665-0251

Fax : 03-3665-0257

Mail : musee@yamasa.com

H P : <http://www.yamasa.com/musee/>

アクセス：東京メトロ半蔵門線「水天宮前」3番出口そば  
 東京メトロ日比谷線「人形町」A2出口徒歩8分  
 首都高速箱崎I.C「浜町出口」又は「清洲橋出口」



当館は  
ぐるっとバスに  
参加しています。